

平成 2 9 年度

事 業 報 告 書

公益財団法人広島平和文化センター

目 次

事業報告書

1	設立目的及び概況	1
2	役員等の状況	2
3	理事会等の開催	6
4	定款の変更	10
5	職員の状況	10
6	事業の実施状況等	
I	事業の実施状況	
(1)	公益目的事業1(平和推進事業)	
ア	被爆体験継承普及事業	11
イ	平和意識高揚事業	19
ウ	国際平和推進事業	22
エ	施設の管理運営	28
(2)	公益目的事業2(国際交流・協力事業)	
ア	国際交流・協力推進事業	33
イ	国際化推進事業	36
ウ	ひろしま奨学金支給事業	39
(3)	収益事業等	
ア	広島平和記念資料館での収益事業	39
イ	広島国際会議場での収益事業	40
ウ	広島国際会議場の管理運営	40
II	無償使用貸借資産	41
III	事業報告の附属明細書	41

事業報告書

事業報告書

平成 29 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告書
(平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで)

1 設立目的及び概況

(1) 設立目的

広島の被爆体験を根底に据え、その継承を図るとともに、国内外の平和研究機関、関係団体等と連携し、全人類的な視野に立って、平和思想の普及と国際相互理解・協力の増進を図り、もって世界平和の推進と人類の福祉の増進に寄与することを目的とする。

(2) 概 況

ア 設立年月日

昭和 51 年 4 月 1 日

イ 基本財産

設立当初の基本財産は 1, 000 万円（全額広島市出資）であったが、その後 13 億 2, 186 万 744 円を増額し、平成 29 年度末現在の基本財産は 13 億 3, 186 万 744 円（うち広島市出資 12 億 648 万 9, 043 円）である。

ウ 実施事業

実施事業は、次のとおりである。

- (ア) 平和の推進及び国際交流・協力に関する調査研究
- (イ) 原爆被爆の実相、平和の推進及び国際交流・協力に関する国内外の資料・情報等の収集、整理及び活用
- (ウ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する国際会議、講座、講演会、展示会等の開催
- (エ) 国内外の研究所、市民団体等との交流並びに平和の推進及び国際交流・協力活動に対する助成
- (オ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する出版物の刊行及び頒布並

びに記念品の製作・販売

(カ) 平和の推進及び国際交流・協力に関する施設の管理の受託

(キ) その他公益財団法人広島平和文化センターの目的を達成するために必要な事業

2 役員等の状況

(1) 役員等の数

会 長	1 人
理 事 長	1 人
常務理事	2 人
理 事	2 0 人
監 事	2 人
評 議 員	1 6 人

(2) 理事・監事

ア 事業年度中の理事・監事の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成 2 9 年 4 月 1 日	理 事	川 野 徳 幸	就 任
〃	〃	渡 辺 宏	就 任
平成 2 9 年 6 月 1 3 日	会 長	松 井 一 實	重 任
〃	理 事 長	小 溝 泰 義	重 任
〃	常務理事	城 一 博	重 任
〃	〃	岩 崎 静 二	重 任
〃	理 事	池 田 修 一	重 任
〃	〃	石 岡 修	重 任
〃	〃	植 野 実智成	重 任
〃	〃	小 川 順 子	重 任
〃	〃	上久保 昭 二	重 任
〃	〃	川 野 徳 幸	重 任
〃	〃	神 部 泰	重 任
〃	〃	岸 本 伸 三	重 任
〃	〃	北 川 建 次	重 任

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異 動 内 容
平成 2 9 年 6 月 1 3 日	理 事	吉 川 元	重 任
〃	〃	ヒーター・ゴールズベリ	重 任
〃	〃	小 林 即 典	重 任
〃	〃	佐々木 宏 憲	重 任
〃	〃	柴 田 幸 子	重 任
〃	〃	谷 口 裕 之	重 任
〃	〃	茶 幡 博 子	重 任
〃	〃	延 本 真 栄 子	重 任
〃	〃	松 浦 伸 也	重 任
〃	〃	渡 部 朋 子	重 任
〃	〃	渡 辺 宏	重 任
平成 2 9 年 6 月 2 8 日	監 事	小 嶋 泰 紀	辞 任
平成 2 9 年 6 月 2 9 日	〃	部 谷 俊 雄	就 任
平成 2 9 年 1 2 月 3 1 日	理 事	佐々木 宏 憲	辞 任
平成 3 0 年 1 月 1 日	〃	松 田 一 宏	就 任
平成 3 0 年 3 月 3 1 日	理 事	池 田 修 一	辞 任
〃	〃	石 岡 修	辞 任
〃	〃	小 林 即 典	辞 任
〃	監 事	藤 田 悟	辞 任

イ 平成30年3月31日現在の理事・監事は、次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
会 長	松 井 一 實	平成23年 4月11日
理 事 長	小 溝 泰 義	平成25年 4月 1日
常務理事	城 一 博	平成27年 4月 1日
〃	岩 崎 静 二	平成28年 4月 1日
理 事	池 田 修 一	平成28年 4月 1日
〃	石 岡 修	平成24年 4月 1日
〃	植 野 実智成	平成26年 5月 1日
〃	小 川 順 子	平成23年 4月 1日
〃	上久保 昭 二	平成26年 4月 1日
〃	川 野 徳 幸	平成29年 4月 1日
〃	神 部 泰	平成28年12月26日
〃	岸 本 伸 三	平成23年 4月 1日
〃	北 川 建 次	平成23年 4月 1日
〃	吉 川 元	平成25年 4月 1日
〃	ヒーター・コールスベリ	平成23年 4月 1日
〃	小 林 即 典	平成28年 4月 1日
〃	柴 田 幸 子	平成23年 4月 1日
〃	谷 口 裕 之	平成28年 3月 1日
〃	茶 幡 博 子	平成23年 4月 1日
〃	延 本 真栄子	平成23年 4月 1日
〃	松 浦 伸 也	平成28年 2月 1日
〃	松 田 一 宏	平成30年 1月 1日
〃	渡 部 朋 子	平成23年 4月 1日
〃	渡 辺 宏	平成29年 4月 1日
監 事	藤 田 悟	平成28年 4月 1日
〃	部 谷 俊 雄	平成29年 6月29日

(3) 評議員

ア 事業年度中の評議員の異動は、次のとおりである。

異 動 年 月 日	役 職	氏 名	異動内容
平成 29 年 6 月 30 日	評 議 員	堀 江 嘉 子	辞 任
平成 29 年 7 月 1 日	〃	上 野 早 苗	就 任
平成 29 年 12 月 31 日	〃	沖 本 頼 政	辞 任
平成 30 年 1 月 1 日	〃	龍 永 直 記	就 任
平成 30 年 3 月 31 日	〃	市 川 太 一	辞 任

イ 平成 30 年 3 月 31 日現在の評議員は次のとおりである。

役 職	氏 名	就 任 年 月 日
評 議 員	青 木 信 之	平成 25 年 4 月 1 日
〃	池 上 忍	平成 23 年 4 月 1 日
〃	市 川 太 一	平成 23 年 4 月 1 日
〃	上 野 早 苗	平成 29 年 7 月 1 日
〃	越 智 光 夫	平成 27 年 4 月 1 日
〃	片 岡 勝 子	平成 23 年 4 月 1 日
〃	多 田 チャニートン	平成 23 年 4 月 1 日
〃	龍 永 直 記	平成 30 年 1 月 1 日
〃	谷 村 武 士	平成 23 年 4 月 1 日
〃	月 村 佳 子	平成 26 年 5 月 1 日
〃	坪 井 直	平成 23 年 4 月 1 日
〃	徳 田 洋 子	平成 26 年 6 月 10 日
〃	丹 羽 太 貫	平成 27 年 7 月 1 日
〃	古 谷 章 子	平成 23 年 4 月 1 日
〃	松 村 誠	平成 25 年 5 月 19 日
〃	森 瀧 春 子	平成 23 年 4 月 1 日

3 理事会等の開催

(1) 理事会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審議結果
平成 29 年 5 月 29 日	第 1 回	1 職員の職務に係る倫理の保持に関する状況及び職員の職務に係る倫理の保持に関して講じた施策に関する報告について (報告第 1 号) 2 平成 28 年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告及び決算について (第 1 号議案)	終 了 承 認
平成 29 年 6 月 13 日	第 2 回	1 会長（代表理事）の選定について (第 2 号議案) 2 理事長（代表理事）の選定について (第 3 号議案) 3 常務理事の選定について (第 4 号議案) 4 常務理事の選定について (第 5 号議案)	選 定 選 定 選 定 選 定
平成 29 年 10 月 4 日	第 3 回	1 公益財団法人広島平和文化センター平成 29 年度事業実施状況報告（4 月～8 月分）について (報告第 2 号) 2 平成 29 年度公益財団法人広島平和文化センター収支予算の補正について (第 6 号議案)	終 了 原案可決

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
		3 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第7号議案) 4 平成30年度予算計上を検討中の主な事業について	原案可決 終 了
平成30年 3月28日	第4回	1 平成30年度公益財団法人広島平和文化センター事業計画及び収支予算について (第8号議案) 2 公益財団法人広島平和文化センター評議員会の開催について (第9号議案)	原案可決 原案可決

(2) 評 議 員 会

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
平成29年 4月1日	第1回	1 理事の選任について (第1号議案) 2 理事の選任について (第2号議案)	選 任 選 任
平成29年 6月13日	第2回	1 平成28年度公益財団法人広島平和文化センター事業報告について (報告第1号) 2 平成28年度公益財団法人広島平和文化センター決算報告について (第3号議案) 3 評議員の選任について (第4号議案)	終 了 承 認 選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
		4 理事の選任について (第 5 号議案)	選 任
		5 理事の選任について (第 6 号議案)	選 任
		6 理事の選任について (第 7 号議案)	選 任
		7 理事の選任について (第 8 号議案)	選 任
		8 理事の選任について (第 9 号議案)	選 任
		9 理事の選任について (第 1 0 号議案)	選 任
		1 0 理事の選任について (第 1 1 号議案)	選 任
		1 1 理事の選任について (第 1 2 号議案)	選 任
		1 2 理事の選任について (第 1 3 号議案)	選 任
		1 3 理事の選任について (第 1 4 号議案)	選 任
		1 4 理事の選任について (第 1 5 号議案)	選 任
		1 5 理事の選任について (第 1 6 号議案)	選 任
		1 6 理事の選任について (第 1 7 号議案)	選 任
		1 7 理事の選任について (第 1 8 号議案)	選 任
		1 8 理事の選任について (第 1 9 号議案)	選 任
		1 9 理事の選任について (第 2 0 号議案)	選 任

開催年月日	開催回数	付 議 事 項	審 議 結 果
		2 0 理事の選任について (第 2 1 号議案) 2 1 理事の選任について (第 2 2 号議案) 2 2 理事の選任について (第 2 3 号議案) 2 3 理事の選任について (第 2 4 号議案) 2 4 理事の選任について (第 2 5 号議案) 2 5 理事の選任について (第 2 6 号議案) 2 6 理事の選任について (第 2 7 号議案) 2 7 理事の選任について (第 2 8 号議案)	選 任 選 任 選 任 選 任 選 任 選 任 選 任
平成 2 9 年 6 月 2 0 日	第 3 回	1 監事の選任について (第 2 9 号議案)	選 任
平成 2 9 年 1 0 月 2 4 日	第 4 回	1 平成 2 9 年度公益財団法人 広島平和文化センター収支予 算の補正について (第 3 0 号議案)	原案可決
平成 2 9 年 1 2 月 3 1 日	第 5 回	1 評議員の選任について (第 3 1 号議案) 2 理事の選任について (第 3 2 号議案)	選 任 選 任
平成 3 0 年 3 月 2 8 日	第 6 回	1 平成 3 0 年度公益財団法人 広島平和文化センター事業計 画及び収支予算について (第 3 3 号議案) 2 評議員の選任について (第 3 4 号議案)	承 認 選 任

4 定款の変更

事業年度中の定款の変更はない。

5 職員の状況

平成30年3月31日現在の職員の状況は、次のとおりである。

(単位：人)

区 分	局 長 級	部 長 級	課 長 級	課 長 補 佐 級	係 長 級	主 事	非 常 勤	計
総 務 課		1		1	1	5	1 2	2 0
施 設 課				1	2	1		4
平和連帯推進課		(1)	(2)	(3)	(3)	(6)		(1 5)
			1	2	1	5	2	1 1
国際交流・協力課		1		1	1	3	3	9
学 芸 課	1		1	1	1	8	7	1 9
啓 発 課			1	2		6	2	1 1
国 際 会 議 場	1			1	1	3	4	1 0
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館		1		2		5	6	1 4
計	2	(1) 3	(2) 3	(3) 1 1	(3) 7	(6) 3 6		(1 5) 9 8

(注) 1 局長級に平和記念資料館長及び国際会議場館長を、部長級に総務部参事及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館長を、課長補佐級に主幹、専門員、国際会議場副館長及び国立広島原爆死没者追悼平和祈念館副館長を、係長級に主査及び国際会議場館長代理を、主事に学芸員及び技師をそれぞれ含む。

2 ()は、広島市との併任職員で外数である。

6 事業の実施状況等

I 事業の実施状況

(1) 公益目的事業1 (平和推進事業)

ア 被爆体験継承普及事業

(7) 修学旅行生への被爆体験講話等 (決算額：693万7千円)

- a 被爆の実相を次の世代に正しく伝え、平和意識の高揚を図るため、修学旅行生を始めとする国内外からの来訪者などを対象に、学校等からの依頼を受けて、被爆体験講話や被爆体験伝承講話の実施、原爆記録ビデオの上映等を行った。

・被爆体験講話

区 分	件 数	人 数
小 学 校	924 (792)	69,708 (61,664)
中 学 校	329 (282)	38,024 (33,582)
高等学校	172 (152)	28,581 (26,402)
そ の 他	626 (522)	18,123 (14,115)
計	2,051 (1,748)	154,436 (135,763)

※()内は財団委嘱の講師による被爆体験証言で内数である。

・被爆体験伝承講話

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	199	20,025
英語での講話	104	2,643
計	303	22,668

- b ヒロシマの心を伝えるとともに、被爆体験継承の推進を図るため、8月6日を含む夏休み期間に、平和記念公園を訪れる人々へ、事前予約不要かつ無料で被爆体験講話を聴く機会を提供した。

- ・開催日：平成29年8月1日(火)、3日(木)、6日(日)、18日(金)～20日(日)

- ・場 所：広島平和記念資料館、広島国際会議場

- ・参加者：1,558人

(イ) ヒロシマ・ピース・ボランティア事業（決算額：336万3千円）

被爆体験継承の推進を図るため、ボランティアにより、広島平和記念資料館の展示及び平和記念公園内の慰霊碑等の解説を行った。

・ボランティア登録者数 218人（平成30年3月31日現在）

・活動実績

① 館内移動展示解説 1,721団体（5,615人）

② 公園内移動解説 1,697団体（21,049人）

(ウ) 被爆者証言ビデオの制作（決算額：204万円）

広島県内在住の被爆者の証言映像を記録し、保存するとともに、被爆の実相を国内外の次の世代に継承するため、複製したDVD等の貸出しやインターネット上での公開を行った。

〔オリジナル版〕（1本に1人約20～30分間収録）

・DVD 10本制作（累計制作数 1,105本）

〔ダイジェスト版〕（オリジナル版を編集し、1本に3～4人分を約30分～40分間収録）

・DVD 3本制作

(エ) 被爆体験証言者交流の集いの運営（決算額：14万8千円）

被爆体験継承活動を行っている団体の活動に資するため、団体相互の情報交換と学習を深める研修会等を行った。

a 全体会

区 分		内 容
第1回	平成29年8月29日(火) 広島国際会議場 3階研修室2・3	・平成28年度活動報告 ・平成29年度活動計画(案)説明 ・広島平和記念資料館事業の概要及び入館者の概況説明 ・被爆体験証言者の活動状況調査の結果報告及び意見交換
第2回	平成29年12月13日(水) 広島国際会議場 3階研修室2・3	・被爆体験伝承講話等実施状況の報告 ・平成29年度第2回研修会テーマについての意見交換

b 研修会

〔第1回〕

- ・日 時：平成29年12月9日(土) 午後2時～午後3時30分
- ・会 場：広島平和記念資料館東館地下1階 メモリアルホール
- ・テーマ：「被爆体験の継承」を再考する
- ・講 師：広島市立大学平和研究所 教授 直野 章子
- ・参加者：150人

〔第2回〕

- ・日 時：平成30年2月17日(土) 午後3時～午後4時40分
- ・会 場：広島平和記念資料館東館地下1階 メモリアルホール
- ・テーマ：核兵器禁止条約 ～私たちができること
- ・講 師：NGOピースボート 共同代表 川崎 哲
- ・参加者：250人

(オ) 平和文化センターインターンシップ事業（決算額：3万9千円）

大学生などを実習生として受け入れ、広島平和記念資料館等における就業体験を通して、被爆地ヒロシマについての理解を深める機会を提供した。

- ・受入人数：16人（大学生9人、中学生7人）
- ・受入期間：2日～6日／人

(カ) ヒロシマ・ピースフォーラムの開催（決算額：43万円）

市民が「平和の原点」としての「ヒロシマ」を見つめ直し、原爆や平和について考え、どのように行動していけばよいか探求する機会を提供するため、広島市立大学と連携し、連続講座を開催した。

日 程	内 容 ・ 講 師
〔第1回〕 5月13日(土) 広島平和記念資料館 会議室1	・「被爆体験の継承を問い直す」 広島市立大学広島平和研究所 教授 直野 章子 ・「ヒロシマを考える意義」 広島市立大学広島平和研究所 准教授 竹本 真希子 ・グループ自己紹介、意見交換
〔第2回〕 5月27日(土) 広島平和記念資料館 会議室1	・被爆体験証言 (公財)広島平和文化センター被爆体験証言者 寺本 貴司 ・「ヒロシマ・ナガサキでの原爆被害による健康被害とその原因について」 広島大学 名誉教授 大瀧 滋 ・「被爆の記憶とその継承」 NHK広島放送局 アナウンサー 出山 知樹

日 程	内 容 ・ 講 師
〔第 3 回〕 6 月 10 日(土) 宇品港周辺	・ フィールドワーク「戦争と宇品港」 広島市郷土資料館 学芸員
〔第 4 回〕 6 月 24 日(土) 広島平和記念資料館 会議室 1	・ 「最近の核問題および日本と朝鮮半島を考える」 広島市立大学広島平和研究所副所長 水本 和実 ・ 「韓国文献のなかの「『ヒロシマ』」 駐広島大韓民国総領事館 専任研究員 チェ・ウンソク ・ グループ討議
〔第 5 回〕 7 月 8 日(土) 広島平和記念資料館 会議室 1	・ 平和活動の取組事例の紹介 ピースボランティア・被爆体験伝承者 檜原 泰一 写真家 堂畝 紘子 NPO法人これからの学びネットワーク 代表理事 堀江 清二 ・ グループ討議
〔第 6 回〕 7 月 22 日(土) 広島平和記念資料館 会議室 1	・ 「被爆体験と世界の平和」 広島市立大学広島平和研究所副所長 水本 和実 ・ グループ討議・発表・総括

※受講者：74人

(キ) 国内原爆写真展用資料の普及・活用（決算額：72万2千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展を開催する国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆写真ポスター・パネルを貸し出した。

貸 出 資 料	点 数
原爆写真ポスター	105
原爆写真パネル	47
計	152

(ク) 中・高校生ピースクラブの開催（決算額：126万1千円）

被爆の実相を学び、平和に対する見識を高めるとともに、自ら平和を目指して取り組む力を養い、平和を推進していく人材の育成を図るため、中・高校生に対して、被爆の実相等を学ぶ講座やワークショップなどの学習の場を提供した。

- ・ 開催期間：平成29年6月～平成30年3月（全10回）
- ・ 活動場所：広島平和記念資料館、長崎原爆資料館（長崎市）ほか

- ・ 内 容：① 広島平和記念資料館の見学、平和記念公園内の碑めぐり
② 原爆被害の概要説明及び平和記念公園内慰霊碑ガイドの実施
③ 長崎市での平和学習（２泊３日）
④ 原爆被害の概要説明及び学習報告会の実施
- ・ 参 加 者：中学生、高校生（３１人）
- ・ ボランティア：１８歳以上（５人）

(7) 平和学習講座（決算額：27万5千円）

被爆の実相や核兵器廃絶への取組などについての理解を深めるとともに、自ら平和活動に取り組む意識を醸成するため、講師を小・中・高等学校等に派遣し、平和学習を実施した。

実 施 先	回 数
小・中・高等学校	61
その他	8
計	69

- ・登録講師：10人（平成30年3月31日現在）

(c) 平和記念資料館学習ワークブック等の作成（決算額：672万5千円）

修学旅行生等が、広島平和記念資料館の見学を通して、より効果的に被爆の実相を学び、平和を目指す自主的な取組につなげることができるよう、また、広島市への修学旅行誘致及び資料館入館者増加策の一助として、「広島平和記念資料館平和学習ワークブック」、「広島平和記念資料館学習ハンドブック」及び「平和記念公園めぐり」を作成し、配付した。

- ・作成部数 ワークブック(中学・高校生用) 生徒用： 15,000部
- ハンドブック(小学生用)： 100,000部
- ハンドブック(中学・高校生用)： 600,000部
- 平和記念公園めぐり： 600,000部

(サ) 国内原爆展の開催（決算額：1,208万円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けた国内世論を醸成するため、原爆展を開催した。

〔沖縄県糸満市〕

- ・ 期 間：平成29年7月1日(土)～8月12日(土)
- ・ 会 場：沖縄県平和祈念資料館
- ・ 内 容：写真パネル・被爆資料の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・ 入 場 者：11,527人

〔沖縄県沖縄市〕

- ・ 期 間：平成29年8月16日(水)～8月27日(日)
- ・ 会 場：沖縄市役所市民ロビー
- ・ 内 容：写真パネル・被爆資料の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・ 入 場 者：約12,000人

〔沖縄県石垣市〕

- ・ 期 間：平成29年9月3日(日)～9月15日(金)
- ・ 会 場：石垣市民会館
- ・ 内 容：写真パネル・被爆資料の展示、原爆記録映像上映、被爆体験証言等
- ・ 入 場 者：1,792人

(シ) 原爆展・平和学習用資料の普及・活用（決算額：92万8千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、国内の学校や各種平和団体、自治体等へ原爆展・平和学習用資料を貸し出した。

貸 出 資 料	点 数
D V D等映像資料	619
市民が描いた原爆の絵（複製）、ポスター、絵本セット等	402
計	1,021

(ス) 英語で伝えようヒロシマセミナー（決算額：15万8千円）

被爆の実相を正しく英語で伝えるため、原爆被害の概要及び英語での表現方法について学ぶ場を提供した。

区 分	実施回数	延参加人数
ベーシック編	2	320
アドバンス編	2	362

(セ) 旧日本銀行広島支店での平和記念資料館収蔵品の展示（決算額：197万6千円）

旧日本銀行広島支店で、被爆資料や「市民が描いた原爆の絵」、平和記念資料館収蔵品（米国議会図書館等所蔵写真など）の展示を行い、平和記念資料館以外の場所で被爆の実相に触れる機会を提供した。

・時 期：平成27年7月～平成31年3月（予定）

(ソ) 被爆体験伝承者による伝承講話の定時開催（決算額：359万円）

広島平和記念資料館の来館者等を対象に、同館において、事前予約不要かつ無料で被爆体験伝承者による講話を定時開催した。

区 分	件 数	人 数
日本語での講話	743	10,237
英語での講話	377	4,841
計	1,120	15,078

(タ) 平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化（決算額：1,206万8千円）

経年劣化が懸念されている収蔵資料のうち、最も危険な状態にある写真資料や再整備後に常設展示を予定している被爆資料から順に、劣化状況を調査し必要な保存措置を講じるとともに、収蔵庫と展示室の環境についても調査を行い、改善を図った。

また、同様に経年劣化が課題となっている、アナログ方式で記録された被爆者証言ビデオのデジタル化等を行った。

(チ) 被爆資料の収集等の強化（決算額：738万1千円）

a 被爆資料の収集の強化

被爆者やその遺族を訪問して、被爆状況の調査及び聴き取りを行い、資料の寄贈を呼び掛けるとともに、展示内容や出版物の充実を図るた

め、広島平和記念資料館の沿革に係る資料や情報の調査・収集を行った。

また、米国科学アカデミー等が所蔵する被爆関連写真の調査及び収集を行った。

区分	米国	ニュージーランド
調査期間	平成29年9月24日（日） ～10月7日（土）	平成29年11月11日（土） ～11月18日（土）
調査場所	①米国科学アカデミー ②シカゴ大学図書館 ③マッカーサー記念館 ④米国海兵隊歴史部	①オークランド戦争記念博物館 ②アレクサンダー・ターンバル 図書館
収集点数	約2,400点	約1,000点

b 海外博物館とのネットワークの強化

ヒロシマ・ナガサキ原爆展開催に合わせて、開催地近辺の平和をテーマとした博物館等を訪問し、今後の連携の可能性について、協議を行った。

- ・訪問先：岩の病院・核の避難所博物館（ハンガリー・ブダペスト市）、アウシュビッツ・ビルケナウ博物館（ポーランド・オシフィエンチム市）、カーン記念館（フランス・カーン市）等

(ツ) 平和記念資料館ボランティアスタッフ活動支援事業（決算額：218万2千円）

来館者等に被爆の実相などを正確かつ効果的に伝えるため、広島平和記念資料館の各種事業に携わるボランティアスタッフを対象に、体系的な研修を一元的かつ継続的に実施した。

- ・対象：被爆体験証言者、ヒロシマ・ピース・ボランティア、平和学習講座講師、被爆体験伝承者
- ・内容：総合研修（2回）、英語研修（136回）、パワーポイント研修（2回）
- ・参加者：延べ811人

(テ) 平和記念資料館再整備事業（決算額：5,681万円）

本館の展示整備については、展示検討会議での議論を踏まえながら、展示説明文や音声ガイド原稿の執筆を行うとともに、展示に使用する映像や

写真資料の収集を行った。なお、東館については、平成29年4月26日にリニューアルオープンし、ホワイトパノラマ等新たに整備した映像装置を運用した。

(ト) 平和・戦争に関する博物館等とのネットワーク（決算額：18万2千円）

沖縄県糸満市で開催された第24回日本平和博物館会議に参加し、協議と情報交換を行った。

- ・期 間：平成29年12月7日(木)～12月8日(金)
- ・会 場：沖縄県平和祈念資料館

(タ) 展示・収蔵資料等の調査研究（決算額：200万3千円）

常設展示の一部見直しや企画展開催の基礎的データの蓄積を図るため、広島平和記念資料館資料調査研究会の会員が、被爆資料等の調査・分析や学術的研究を行った。

- ・「最新の核を取り巻く状況及び核・平和に関する論文の整理、分析」、
「被爆前後の広島を撮影した米軍空撮写真のモザイク化」など9テーマ

イ 平和意識高揚事業

(ア) こども平和キャンプの開催（決算額：22万9千円）

平和意識の高揚を図るため、小学校4年生から中学校3年生までを対象に被爆の実相や平和の大切さについて学ぶ場を提供した。

- ・期 間：平成29年6月3日(土)～6月4日(日)
- ・会 場：平和記念公園周辺、広島市似島臨海少年自然の家など
- ・内 容：① 被爆体験伝承講話
② 被爆電車乗車
③ 似島での遺構めぐり
- ・参加者：28人

(イ) ひろしま子ども平和の集い（決算額：101万9千円）

若い世代の平和意識の高揚と主体的な取組の促進を図るため、平和記念式典参列等のために広島を訪れる子どもたちと広島在住の子どもたちに平和のメッセージを発信してもらう集いを開催した。

- ・日 時：平成29年8月6日(日) 午前10時00分～午前12時
- ・会 場：広島国際会議場 フェニックスホール
- ・内 容：平和への思いを言葉や歌など様々な形で発表
- ・参加者：10団体152人（市内6団体131人、市外4団体21人）

(ウ) こどもたちの平和文化活動支援事業（決算額：123万2千円）

小・中学生による多様な平和文化活動を奨励することにより、平和文化活動を活性化させ、子どもたちの平和意識の高揚を図るため、平和文化活動（絵画、習字、作文、俳句、標語、工作など）を行った学校からの申請を受け、参加者全員に記念品を贈った。

- ・申請者数：4,455人

(エ) 機関紙の発行等（決算額：362万9千円）

本財団が行う平和や国際交流・協力への取組を紹介する和文機関紙「平和文化」、英文機関紙 PEACE CULTURE を発行するとともに、本財団の事業報告「平和と交流 2017年版（平成28年度事業）」を作成しホームページに掲載した。また、本財団の活動に関する情報等をインターネットで適宜提供した。

区 分	発行回数・部数	配 布 先
和文機関紙 「平和文化」	3回 各6,000部	有識者、平和関係団体、国公立図書館、大学図書館、国際交流・協力団体、登録ボランティア、本財団理事・評議員・専門委員・会員、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、広島市関係機関、広島市内小・中・高・大学等
英文機関紙 PEACE CULTURE	2回 各2,000部	海外の有識者、海外平和関係機関、海外友好パートナー、海外姉妹・友好都市、海外軍縮NGO、国内国際交流・協力団体、翻訳ボランティア、在日大使館等

日本平和学会春季研究大会に出席し、平和研究の最新の成果を学ぶとともに学会員との交流を深めた。

- ・時 期：平成29年7月1日(土)～2日(日)
- ・場 所：北海道大学（札幌市内）

(オ) 平和宣言の発信（決算額：161万5千円）

核兵器廃絶に向けた国際世論を醸成するため、平和宣言の内容を国内外に発信した。

〔内 容〕

- ① 平和宣言文パネル(和文、英文)の作成・掲示
- ② 平和宣言読上げの動画作成・インターネットでの発信等
 - ・平和宣言読上げの動画(日本語、英語)作成及び広島市ホームページでの発信
 - ・外国語8か国語(スペイン語、フランス語、ロシア語、中国語、アラビア語、ドイツ語、ハンガール、ポルトガル語)による平和宣言文の作成
- ③ 平和宣言文の送付等(和文：24,700部、英文：13,900部、点字：225部)

(カ) 広島平和記念資料館ホームページ及びデータベースの管理・運用（決算額：1,899万5千円）

核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を世界に訴え、国際世論を醸成していくため、広島平和記念資料館のホームページ等で原爆・平和に関する情報を発信した。

- ① ホームページのアクセス件数（平成29年度）
 - 広島平和記念資料館ホームページ 約77万件
 - キッズ平和ステーション 約29万件
 - 広島平和記念資料館 バーチャル・ミュージアム 約52万件
- ② データベースの管理・運用
 - 平和記念資料館が所蔵する被爆資料、写真、絵、動画等の原爆・平和に関する資料をデータベース化して管理し、一部を公開した。
 - ・データベース公開件数（平成30年3月現在）：約9万2千件

(キ) 情報資料室の管理運営（決算額：337万2千円）

平和文化の普及、高揚と被爆体験の継承を図るための調査、研究の場として、原爆・平和に関する資料・情報の収集、保存を行い、閲覧に供した。

- ・利用者数：45,198人
- ・資料展の開催：
 - ① 単行本未収録「はだしのゲン」扉絵展
平成29年7月21日(金)～平成30年3月25日(日)
 - ② 「ドーム誕生！」
ー写真と資料で読み解く被爆前のドームー
平成30年3月30日(金)～8月31日(金)（予定）

ウ 国際平和推進事業

(7) 国際平和シンポジウムの開催（決算額：313万5千円）

市民の平和意識の高揚と国内外への平和メッセージの発信を目的に、広島市及び朝日新聞社との共催により、シンポジウムを開催した。

- ・ 日 時：平成29年7月29日(土) 午後1時～午後5時
- ・ 場 所：広島国際会議場
- ・ テーマ：核兵器廃絶への道～この世界の分断を越えて～
- ・ 参加人数：約400人

(イ) 国連軍縮フェローズの受入れ（決算額：35万6千円）

軍縮専門家の育成を目的として、各国外交官を対象に国連が主催する「国連軍縮フェローシップ計画」の研修生（フェローズ）を受け入れ、被爆の実相等について理解を深めてもらうための研修を行った。

- ・ 期 間：平成29年10月3日(火)～10月5日(木)
- ・ 場 所：平和記念公園、広島平和記念資料館等
- ・ 内 容：①被爆体験講話の聴講
②広島平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館、放射線影響研究所の見学
③広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）参拝・献花等
- ・ 受入人数：27人（フェローズ25人、国連職員2人）

(ウ) 中国人民平和軍縮協会との交流（決算額：56万円）

中国の平和・軍縮分野のNGOである中国人民平和軍縮協会との交流を深めるため、本財団から訪中団を派遣し、被爆の実相や核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願う「ヒロシマの心」を伝えるとともに、市民レベルの交流を行い、相互理解の促進を図った。

- ・ 期 間：平成29年11月10日(金)～11月14日(火)
- ・ 訪 問 先：北京、天津、上海
- ・ 派遣人数：6人

(エ) ウェブ会議システムによる海外への被爆体験証言（決算額：32万1千円）

海外の人々に被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、ウェブ会議システムによる被爆体験証言を行った。

- ・ 実施回数：9か国9都市・13回

(オ) ピースナイターの開催（決算額：28万5千円）

広島東洋カープの試合の場を活用して、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたメッセージを発信し、平和に対する意識を喚起するため、「ピースナイター」を生活協同組合ひろしま等と共催した。

- ・日 時：平成29年8月2日（水）午後6時～
- ・場 所：MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広島（広島市民球場）
- ・内 容：① 球場内の原爆ドームと同じ高さ（地上25m）の座席の観客に赤色のポスターを、その他の座席の観客には緑色のポスターを掲げてもらうことにより、球場全体の緑色の中に赤色の線「ピースライン25」を作り、平和への願いをアピールした。
- ② グラウンド内で地元高校生による「ピースパフォーマンス」を実施した。
- ③ 試合開始前とイニングの間に、大型ビジョンで松井市長や湯崎県知事等の平和を願うビデオメッセージを放映したほか、平成20年に始まったピースナイターの10周年の歩みを紹介した。
- ④ 試合中、カープの監督や選手等がユニフォームにピースワッペンを着けてプレーした。
- ⑤ 始球式を被爆二世の歌手高橋真梨子さんが務めた。

(カ) 国外原爆写真展用資料の提供（決算額：46万8千円）

被爆の実相を伝え、平和意識の高揚を図るため、原爆展の開催や平和学習の実施に取り組む世界各地の自治体、NGO、学校、個人等に対し、ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター及び映像資料等の貸出・提供を行った。

〔ヒロシマ・ナガサキ原爆写真ポスター〕

区 分	点数	国・地域数
英語版	18	13
フランス語版	4	3
中国語版	1	1
ドイツ語版	1	1
ハングル版	1	1
ポルトガル語版	1	1
ロシア語版	1	1
計	27	21

〔映像資料等〕

貸出・提供資料	点 数
映像資料（ＤＶＤ）	122
ポスター用データ等	54
計	176

(キ) ヒロシマ・ナガサキ原爆展の開催（決算額：930万7千円）

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶に向けての国際世論を醸成するため、ハンガリー及びモンテネグロで「ヒロシマ・ナガサキ原爆展」を開催した。

〔ハンガリー〕

- ・期 間：平成29年6月1日（木）～10月31日（火）
- ・会 場：ブダペスト市 岩の病院・核の避難所博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験証言、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：約90,000人

〔モンテネグロ〕

- ・期 間：平成29年11月15日（水）～30日（木）
- ・会 場：コトル市 コトル文化センター
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆体験証言、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：約1,600人

〔ハンガリー〕

- ・期 間：平成29年12月20日（水）～平成30年8月31日（金）（予定）
- ・会 場：ブダペスト市 岩の病院・核の避難所博物館
- ・内 容：被爆の実相を伝える写真パネル・被爆資料等の展示、被爆者証言ビデオ、被爆体験記等
- ・入場者：36,106人（平成30年3月31日現在）

(ク) 「広島・長崎講座」設置協力プログラム（決算額：9万4千円）

被爆体験を学問的なレベルで若い世代に継承するため、国内外の大学に「広島・長崎講座」の開設を呼び掛けるとともに、新たに講座を開設した大学に対し、教材を送付するとともに被爆体験証言聴講の機会を提供した。

- ・新規開設大学：エリザベト音楽大学、広島都市学園大学、慶北国立大学校
人文大学（韓国）

(ケ) 国連見学ツアーガイドのヒロシマ研修（決算額：469万6千円）

常設の原爆展を開設している3か所の国連施設（ニューヨーク国連本部、ジュネーブ欧州国連本部、国連ウィーン事務所）から、国連見学ツアーガイド及びガイドツアー担当職員を広島に招へいし、被爆の実相を理解するための研修を実施した。

- ・ 期 間：平成29年12月2日（土）～5日（火）
- ・ 場 所：広島平和記念資料館、平和記念公園等
- ・ 内 容：①被爆体験講話の聴講
②広島平和記念資料館、原爆ドームの見学
③被爆の実相等の講義の聴講 等
- ・ 招へい人数：6人

(コ) 平和首長会議の運営（決算額：802万1千円）

平和首長会議の運営を通じ、加盟都市の拡大を図りながら、世界の都市と連帯し、核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けた国際世論の醸成を図った。

- ・ 内 容：① 核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向けた世界の都市への連帯の呼び掛け
② メールマガジンの発行
③ 加盟都市の活動情報の収集とホームページでの公表
④ 広島市・長崎市の平和宣言の加盟都市への送付
⑤ 加盟都市データベースの運用保守 等
- ・ 平和首長会議加盟都市数：163か国・地域7,558都市
（平成30年3月1日現在）

(ク) 2020ビジョンキャンペーンの展開（決算額：3,596万9千円）

平成29年8月の平和首長会議総会において策定した、2020年までの具体的な取組を定めた行動計画に基づき、2020ビジョンキャンペーンの更なる展開を図った。

- ・ 内 容：①NPT再検討会議第1回準備委員会等への出席
 - ・ 時期：平成29年5月4日（木）～5月9日（火）
 - ・ 場所：オーストリア・ウィーン市
- ②核兵器禁止条約交渉会議への出席
 - ・ 時期：平成29年6月13日（火）～6月18日（日）

- ・場所：米国・ニューヨーク市
- ③ロシア国内の平和首長会議加盟都市との連携強化
 - ・時期：平成29年10月14日（土）～10月17日（火）
 - ・場所：ロシア・ボルゴグラード市
- ④第7回平和首長会議国内加盟都市会議総会の開催
 - ・時期：平成29年8月9日（水）
 - ・場所：長崎市
 - ・出席者数：104人（64自治体）
- ⑤ノーベル平和賞授賞式への出席
 - ・時期：平成29年12月8日（金）～12月12日（火）
 - ・場所：ノルウェー・オスロ市
- ⑥若者との対話集会「ノーベル平和賞受賞団体 I C A N のベアトリス・フィン事務局長と語る：平和な世界の実現に向けて」の開催
 - ・時期：平成30年1月15日（月）
 - ・場所：広島国際会議場
 - ・参加人数：340人
- ⑦オバマ財団サミットへの出席
 - ・時期：平成29年10月30日（月）～11月3日（金）
 - ・場所：米国・シカゴ市
- ⑧第12回平和と繁栄に関する済州フォーラムへの出席
 - ・時期：平成29年5月31日（水）～6月2日（金）
 - ・場所：韓国・済州特別自治道
- ⑨核兵器禁止条約の早期締結を求める署名活動の展開
 - ・署名数：約268万筆（平成30年3月1日現在累計）
- ⑩平和首長会議加盟都市等への被爆樹木の種・苗木の配付
 - ・平成29年度配付実績：（国内）15自治体
（海外）6か国・12自治体・1団体
- ⑪全米市長会議との連携強化
- ⑫海外連絡員の設置
- ⑬平和首長会議原爆ポスターの作成等

（シ） 平和首長会議の体制強化（決算額：429万7千円）

海外の平和首長会議加盟都市を訪問し、新たなリーダー都市への就任要請を行うとともに、意見交換等を通じて連携を深め、平和首長会議の体制強化を図った。

- ・訪問先：①スイス・ジュネーブ市

平成29年10月18日（水）～10月21日（土）

- ②ノルウェー・オスロ市

平成29年12月8日（金）～12月12日（火）

(λ) 平和首長会議インターンシップ（決算額：150万円）

平和首長会議の海外加盟4都市から4名の若手職員等をインターンとして広島に招へいし、平和首長会議事務局で母国の加盟都市の情報更新や未加盟都市の調査・加盟要請などの業務に従事してもらうとともに、自らの都市の平和の取組を紹介してもらい、相互理解と連携強化を促進した。

各インターンは帰国後、講演や青少年への平和教育を行うなど、広島で学んだことを基に核兵器廃絶に向けた活動を行っている。

国	都市名	人数	期間
ブラジル	サントス	1	H29. 11. 6～H29. 11. 21
ロシア	ボルゴグラード	1	H29. 12. 4～H29. 12. 20
イラン	テヘラン	1	H30. 1. 9～H30. 1. 26
スペイン	グラノラズ	1	H30. 2. 5～H30. 2. 21

(㇏) 青少年「平和と交流」支援事業（決算額：451万6千円）

平和首長会議の国内外の加盟自治体の青少年を招へいし、広島市等が主催する4つの事業に参加してもらうとともに、平和首長会議の概要説明、被爆体験証言の聴講や広島平和記念資料館の見学、参加者と事務局を交えた意見交換会など、平和首長会議の独自プログラムを実施した。

派遣元加盟自治体では参加者の報告を踏まえ、平和施策のより一層の充実を図っている。

事業名 (主催)	事業の対象者	平和首長会議加盟自治体からの参加者			期間
		国内	国外	自治体 (下線はリーダー都市)	
HIROSHIMA and PEACE (市立大学)	市立大学 他国の学生等 (学部生・院生)	2人 (学生 社会人)	7人 (学生 社会人)	秋田市、上越市 サントス市、ジャンティイ市 ハノーバー市、 ボルゴグラード市、 マンチェスター市、 モントリオール市、 ユジノサハリンスク市	7/31～8/9 (10日間)

青少年国際平和未来会議ヒロシマ (広島市教育委員会)	広島市及び姉妹・友好都市等の青少年	-	6 人 (学生)	イーペール市 グラナース市 サントス市 ハノーバー市 ホルコグラーツ市 マンチェスター市	8/4～8/14 (11 日間)
ひろしま子ども 平和の集い (広島市等)	8/6 に広島を訪れる子どもたちと広島の子どもたち	3 人 (1 市) 子ども 引率者	-	いわき市	8/5～8/7 (3 日間)
ヒロシマ平和セミナー (市立大学)	大学院生 公務員 メディア関係者	2 人 (公務員)	-	相模原市 松本市	8/24～8/28 (5 日間)

(7) 第 9 回平和首長会議総会への参加（決算額：101 万 1 千円）

平和首長会議の今後の取組について協議・決定するため総会を開催し、36 カ国、158 都市・団体から合計 318 人が参加した。活発な議論が交わされた結果、2020 年の目標年に向け、「平和首長会議行動計画（2017 年－2020 年）」を策定するとともに、「ナガサキアピール」及び「核兵器禁止条約の早期発効を求める特別決議」を採択した。

- ・開催時期：平成 29 年 8 月 7 日（月）～8 月 10 日（木）
- ・開催場所：長崎市

(8) NPT 再検討会議等への高校生派遣事業（決算額：547 万 2 千円）

青少年の世界平和への意識と平和の実現に貢献する意欲を高めることにより、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けたリーダー育成を図るため、2020 年 NPT 再検討会議第 1 回準備委員会に、「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める署名活動に従事している高校生を派遣し、署名目録の同委員会議長への手交、ヒロシマのメッセージの発信等を行った。

- ・派遣時期：平成 29 年 5 月 2 日（火）～5 月 9 日（火）
- ・派遣先：オーストリア・ウィーン市
- ・派遣人数：9 名（高校生 8 名、引率者 1 名）

エ 施設の管理運営

(7) 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の管理運営

＜厚生労働省からの受託事業＞（決算額：2 億 6,679 万 9 千円）

a 入館者数

401,892人（1日平均：1,107人）

（平成14年8月の開館以降の入館者数：3,779,743人）

b 被爆体験記・遺影等の収集及びデータベース化

- ・平成9年度から実施している被爆体験記等の収集・整理（データベース化）を引き続き実施した。

被爆体験記等の収集・整理状況（平成30年3月31日現在）

（単位：人分、％）

区 分	収集件数	整理件数	進捗率
厚生省収集分被爆体験記(H7)	81,205	81,205	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H17)	11,778	11,778	100.0
厚生労働省収集分被爆体験記(H27)	11,366	707	6.2
独自収集分被爆体験記	3,272	3,267	99.8
図書（被爆体験記集等）	(4,666冊)	39,624 (2,842冊)	(60.9)
計	—	136,581	—

（注）1「厚生省収集分被爆体験記(H7)」：平成7年度に厚生省（当時）が実施した

「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

2「厚生労働省収集分被爆体験記(H17)」：平成17年度に厚生労働省が実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

3「厚生労働省収集分被爆体験記(H27)」：平成27年度に厚生労働省が実施した「原子爆弾被爆者実態調査」に併せて収集した被爆体験記をいう。

4「独自収集分被爆体験記」：平成9年度以降収集した被爆体験記をいう。

- ・平成12年度から実施している原爆死没者の氏名・遺影の収集を引き続き実施した。

原爆死没者氏名・遺影の収集状況（平成30年3月31日現在）

（単位：人）

提供者数	原 爆 死 没 者 数		
	氏名・遺影	氏名のみ	計
(90) 12,670	(98) 19,642	(28) 2,701	(126) 22,343

※（ ）内は海外からの提供数で内数である。

c 企画展の開催

祈念館が所蔵する被爆体験記の中から、テーマに沿ったものを選ぶとともに、映像資料を制作して企画展を開催した。なお、映像資料については、DVDや字幕本を作成し、平和学習資料として貸出しを行うとともに、ホームページに掲載した。

① テーマ 「原爆体験記—ヒロシマ原点の記録—その2—」

- ・ 期 間：平成29年1月1日(日)～12月29日(金)
- ・ 展示内容：被爆から5年後の1950年、広島市は核兵器のない平和な世界を築こうと、初めて市民から原爆体験記を募集し、多数の応募があった。当時、日本はまだ占領下であり、まとめられた「原爆体験記」は、広く配布されず、倉庫に眠ったままとなった。被爆からわずか5年後に書かれたヒロシマ原点の記録、生々しい記憶を基に記された体験記を通して、戦争や原爆の悲惨さ、平和への思いを伝えた。

(被爆体験記17編、関連資料20点)

② テーマ 「星は見ている—全滅した広島一中一年生父母の手記集」

- ・ 期 間：平成30年1月1日(月)～12月29日(土) (予定)
- ・ 展示内容：広島に投下された原子爆弾は多くの幼い命を奪った。

1945年8月6日早朝、広島市街には、炎天下で作業する子どもたちの姿があった。入学したばかりの一年生は、爆撃からの延焼を防止するため、防火帯をつくるという建物疎開作業に従事しており、多数が犠牲となった。この作業に従事していて犠牲となった、広島県立広島第一中学校の生徒の遺族が、愛するわが子を失った思いを込めて綴った『星は見ている』。この追悼集を題材に、原爆が落とされる前の家族はどうだったのか、原爆がその家族に何をもたらしたのか、どのようにして、何を訴えて亡くなっていたのか、そのとき、家族はどうしたのか、突然に目の前から消え去ったわが子への思いを映像化し、展示した。

(被爆体験記26編、関連資料80点)

d 被爆者証言ビデオの制作

原爆被爆の体験を後代へ継承するため、広島県外及び国外在住被爆者の証言映像を収録し、当時の資料写真や証言者の家族写真などを織り交ぜながら、一人20分程度に編集し制作した。なお、制作した証言ビデオは、館内及びインターネット上で公開するとともに、平和学習用として貸出を行った。

- ・ 県外在住被爆者

収録者数：12人（北海道5人、栃木県1人、埼玉県2人、千葉県2人、東京都1人、神奈川県1人）

- ・ 国外在住被爆者

収録者数：6人（米国3人、韓国3人）

e 被爆体験記の朗読事業

若い世代へ被爆体験を継承するため、修学旅行などで広島を訪れた児童生徒を対象に被爆体験記（原爆詩を含む。）の朗読会を開催した。また、来館者が自由に参加できる定期朗読会を毎月開催し、外国人来館者にも英語定期朗読会を行った。さらに、広島市内の学校、公民館等へ出向く出前朗読会などを開催したほか、国内原爆展会場でも朗読会を行った。

また、独自で被爆体験記朗読会を行いたい団体等へは朗読セットの貸出しを行った。

- ・ 朗読会開催回数：226回

- ・ 朗読セット貸出件数：16件

朗読ボランティアの高齢化及び英語朗読ができるボランティアの不足に対応するため、一般公募により朗読ボランティアの追加募集を行い、平成29年度7月に新たに16人を追加登録した。この結果、被爆体験記朗読ボランティアの登録者は93人（うち、英語朗読が可能な者19人）となった。

f 広島平和学習セミナーの開催

平和学習を目的として多くの修学旅行生に来館してもらうため、広島市と共同で学校関係者及び旅行会社（教育旅行部門）を対象に、広島での平和学習や体験学習などを紹介する広島平和学習セミナーを開催した。

- ・ 開催日：平成29年9月20日（水）

開催地：さいたま市（対象：埼玉県）

参加者：23人

- ・開催日：平成29年9月21日（木）

開催地：宇都宮市（対象：栃木県）

参加者：19人

g 被爆体験記執筆補助

高齢などにより被爆体験記の執筆が困難な被爆者を対象に、体験談の聞き取りや代筆を行い、被爆体験記の収集数の増加を図った。

- ・執筆補助事業対象者：広島県内在住の被爆者
- ・平成29年度実施者：10人（一般公募）

h 多言語化対応事業

海外から来館する多くの人に、母国語で被爆の実相を伝えるため、平成29年度は、被爆者証言ビデオの証言内容を英語、中国語、韓国・朝鮮語、インドネシア語、スペイン語、スロベニア語、ドイツ語、ハンガリー語、フィリピン語、フランス語、ポーランド語、ポルトガル語の12言語に翻訳し、既に翻訳済みと合わせて22言語の字幕入り証言ビデオを公開した。

また、被爆体験記を英語、中国語、韓国・朝鮮語、ギリシャ語、ノルウェー語、ベトナム語の6言語に翻訳し、既に翻訳済みと合わせて23言語の被爆体験記を体験記閲覧室の外国語コーナーで公開した。

i インターネットによる情報発信

事業内容をホームページに掲載するとともに、保有する被爆体験記及び被爆者証言ビデオを掲載して被爆の実相を伝えた。

j 情報展示システムの保守・管理

来館者へのサービス向上及びシステムの安全性・信頼性を確保するため、情報展示システムの保守・管理を行った。

平成29年度は、情報システム機器変更に伴うシステム改修を行った。

k 施設の管理等

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の維持管理を行った。

(イ) 広島平和記念資料館の管理運営

a 施設等の管理運営（決算額：2億7,653万7千円）

入館者数 (単位：人)

区 分	入館者数	内 訳	
		個 人	団 体
大 人	1,230,229	1,128,229	102,000
小 人	450,694	127,670	323,024
計	1,680,923	1,255,899	425,024

b 広島平和都市記念碑（原爆死没者慰霊碑）の維持管理（決算額：16万2千円）

(2) 公益目的事業2（国際交流・協力事業）

ア 国際交流・協力推進事業

(7) 国際交流・協力事業への助成（決算額：88万7千円）

市民レベルの国際交流・協力の推進を図るため、広島市内で活動している国際交流・協力活動団体が、自主的に企画・実施する国外又は市内での国際交流・協力事業に対して助成を行った。

区 分	助成団体数
国際交流・協力活動育成補助金	0
国際交流・協力活動振興補助金	3
(国 外 事 業)	(2)
(市 内 事 業)	(1)

(イ) 国際交流ネットワークひろしまの運営（決算額：152万1千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体等で構成する国際交流ネットワークひろしまを運営し、加入団体が活動しやすい環境づくりに努めた。また、国際交流・協力課のホームページを活用し、国際交流ネットワークひろしま加入団体の活動情報等を発信した。

・内 容：加入団体への情報提供等、研修室・ボランティア活動コーナーの

運営、ホームステイ等のあっせん

- ・ 加入団体数：１８５団体（平成３０年３月３１日現在）
- ・ 国際交流・協力課のホームページ閲覧状況：年間６４，６６４件
（平成２９年４月～平成３０年３月実績）

(ウ) 国際交流・協力の日の開催（決算額：３１８万３千円）

広島市内の国際交流・協力活動団体間の交流を推進するとともに、市民の関心を高めるため、「国際フェスタ２０１７（国際交流・協力の日イベント）」を開催し、文化体験コーナーや、セミナー、展示、バザー等を実施した。

- ・ 日 時：平成２９年１１月１９日（日） 午前１０時～午後４時
- ・ 会 場：広島国際会議場、平和大通り緑地帯、平和記念公園
- ・ 内 容：① ボビー・オロゴン氏によるトークショー
「教えてボビー！ナイジェリアってどんなところ？」
② 市民団体等活動紹介コーナー
③ ひろしま国際村～世界の屋台
④ 屋外ステージ等、全３８事業を実施
- ・ 主 催：（公財）広島平和文化センター（国際交流・協力課、国際会議場）
- ・ 共 催：独立行政法人国際協力機構中国国際センター、公益財団法人ひろしま国際センター、広島市
- ・ 参加団体：６５団体
- ・ 入場者：延べ約１０，５００人

(エ) 「姉妹・友好都市の日」の開催及び「ヒロシマ・メッセンジャー」の運営（決算額：４２９万６千円）

広島市が海外の６つの姉妹・友好都市ごとに創設した「姉妹・友好都市の日」に市民参加型の記念イベントを開催し、市民交流の一層の拡大と国際意識の高揚を図った。また、「姉妹・友好都市の日」記念イベントの企画・立案及び進行や、国際理解学習の講師として学校等に派遣する「ヒロシマ・メッセンジャー」を募集した。

〔姉妹・友好都市の日の開催〕

a 大邱の日（姉妹都市提携２０周年）

- ・ 開 催 日：平成２９年５月３日（水）～５月５日（金）

- ・開催場所：フラワーフェスティバル会場
- ・参加人数：約 6, 300 人
- ・内 容：大邱広域市紹介コーナー、韓国文化体験コーナー、韓国家庭料理の販売コーナー等

b ハノーバーの日

- ・開催日：平成 29 年 5 月 21 日(日)
- ・開催場所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約 290 人
- ・内 容：ドイツ・ハノーバー紹介コーナー、上田流茶道の体験、ドイツ製法のソーセージとドイツパン・バウムクーヘンの試食、ドイツ音楽コンサート、ドイツ絵本の展示・読み聞かせ等

c モントリオールの日

- ・開催日：平成 29 年 7 月 9 日(日)
- ・開催場所：福屋広島駅前店 6 階マルチの広場
- ・参加人数：約 330 人
- ・内 容：モントリオール&カナダ紹介展、メープルウォーターの試飲、メイプルラスクの試食、モントリオールクイズ、大道芸、お楽しみ抽選会等

d ボルゴグラードの日（姉妹都市提携 45 周年）

- ・開催日：平成 29 年 9 月 10 日(日)
- ・開催場所：紙屋町シャレオ中央広場
- ・参加人数：約 600 人
- ・内 容：ボルゴグラード市の紹介、ロシアのお菓子の試食、ロシア青年音楽家、エリザベト音大生、広島の音楽家の出演によるロシア音楽コンサート等

e 重慶の日

- ・開催日：平成 29 年 10 月 21 日(土)
- ・開催場所：広島市留学生会館
- ・参加人数：約 130 人

- ・内 容：中国・重慶市の紹介、月餅または麻花の試食、和紙ちぎり絵、中国茶の体験、太極拳の演武、中国芸能～変面等の演舞、お楽しみ抽選会等

f ホノルルの日

- ・開 催 日：平成２９年１１月１１日（土）
- ・開催場所：広島駅南口地下イベント広場
- ・参加人数：約５００人
- ・内 容：ホノルル市の紹介、フレーバーコーヒー・ジュースの試飲、リボンレイの展示・製作体験、ハワイアンバンドの演奏、フラステージ等

〔ヒロシマ・メッセンジャーの運営〕

ヒロシマ・メッセンジャーの募集及び面接

- ・募 集 時 期：平成２９年１０月１日（日）～１０月３１日（火）
- ・募 集 内 容：姉妹・友好都市ごとに２人、計１２人
- ・募集者面接会：平成２９年１１月２２日（水）
- ・任 期：平成３０年１月～１２月

イ 国際化推進事業

（７）国際交流員による国際交流事業の実施（決算額：３万７千円）

a 国際交流員の派遣

地域レベルでの国際交流・国際理解を促進するため、学校等広島市関係機関が実施する国際交流・国際理解事業に、英国出身の国際交流員を計２０回派遣した。

b 国際交流員の相談日の実施

国際交流員が、市民からの質問や相談に応じる国際交流員の相談日を国際交流ラウンジにおいて１２回実施し、延べ２８件の相談に応じた。

（４）情報誌の発行（決算額：９万７千円）

外国人市民のための生活・文化情報誌「HIRO CLUB NEWS」を作成・配布した。また、これらの情報をインターネットでも提供した。

- ・掲載情報

広島市広報誌「ひろしま市民と市政」掲載記事の抜粋、広島平和文化センターからのお知らせ、国際交流員によるコラム（年４回）、映画情報、テレビ番組情報（バイリンガル放送）、コンサート・演劇情報、美術館・博物館情報、スポーツ・イベント情報、国際交流ラウンジ情報、その他生活情報

- ・種類：発行回数・ページ数・部数

英語版：月２回発行、１日号約５０ページ、１５日号約５ページ・約１００部/回
中国語、ポルトガル語、スペイン語版：月１回発行、約１５ページ・約５０部/回

- ・配布先：県内国際交流団体、広島市関係機関、広島市内の日本語教室等

(ウ) 国際交流・協力団体との連携（決算額：３４万８千円）

広島地域の国際交流・協力事業の連携・調整を図るため、公益財団法人ひろしま国際センター等関係機関との連絡会議に参加したほか、二国間団体の運営に関し助言を行うとともに、地域国際化協会の研修会等に参加した。

(イ) ボランティア通訳者の研修・派遣事業（決算額：３８万８千円）

日本語での会話が困難な外国人市民の生活を支援するため、ボランティアを登録し、通訳者として必要な研修を行うとともに、要請に応じて区役所や学校、国際的会合などに派遣した。

- ・派遣件数：４７件

- ・派遣人数：延べ７３人

[研修会]

開催日・会場	内 容 ・ 講 師
第１回 平成３０年３月３日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室	・「広島市の多文化共生の取組、現状等」 ・「通訳ボランティア派遣制度について」 ・「通訳ボランティアによる体験談」
第２回 平成３０年３月１０日(土) 広島国際会議場 会議運営事務室	・「外国にルーツを持つ児童・生徒の現状と課題」 (公財) 東広島市教育文化振興事業団 東広島市民文化センター 多文化共生コーディネーター 間瀬 尹久

第3回 平成30年3月17日(土) 広島国際会議場 会議運営事務局ほか	・「語学研修」(英語・中国語) 通訳者養成機関講師
--	------------------------------

(オ) 外国人市民の総合相談窓口事業 (決算額：492万5千円)

日本語に不慣れな外国人市民のために多言語で対応できる相談窓口を開設し、窓口や電話での生活支援相談、生活関連情報の提供・翻訳、行政機関等への同行及び電話による通訳などを行った。

- ・開設場所：国際会議場1階 国際交流ラウンジ
- ・開設日時：月曜日から金曜日（祝日・年末年始・8月6日を除く）

午前9時～午後4時

区 分	月	火	水	木	金
中国語相談員	○	○	○	○	○
スペイン語相談員	○		○		○
ポルトガル語相談員		○		○	○

※第1・第3金曜日、安芸区役所巡回相談（スペイン語・ポルトガル語を交互に実施）

- ・対応件数：906件
(相談：399件、通訳：389件、翻訳：118件 件数は重複分あり)

(カ) 外国人市民の日本語能力向上支援事業 (決算額：25万9千円)

地域日本語教室のボランティア同士の連携を深め、スキルアップを図るための講座と、各教室が抱える課題の一つであるボランティア不足を解消するためのボランティア養成講座を開催した。

a 日本語教室ボランティアスキルアップ講座

- ・開催会場：広島国際会議場3階 研修室
- ・開催日：平成29年9月30日(土)
- ・内 容：地域日本語教室で楽しく「読み書き」の活動を進めるには—『日本語読み書きのたね』を例に—
- ・講師：(一財)海外産業人材育成協会 澤田 幸子

- ・参加人数：43人

b 日本語教室ボランティア養成講座（上期）

- ・開催会場：広島国際会議場3階 研修室
- ・開催期間：平成29年8月19日（土）～9月9日（土）の毎週土曜日全5回
- ・内 容：日本語学習支援の基礎、日本語学習体験談、日本語教室の紹介・交流会
- ・講 師：広島YMCA専門学校 言語コミュニケーション科
専任講師 末田 朝子、福永 尚子
日本語学習体験者、市内日本語教室の代表者
- ・参加人数：20人

c 日本語教室ボランティア養成講座（下期）

- ・開催会場：広島国際会議場3階 研修室
- ・開催期間：平成30年1月25日（木）～2月15日（木）の毎週木曜日全5回
- ・内 容：日本語学習支援の基礎、日本語学習体験談、日本語教室の紹介・交流会
- ・講 師：日本語教師 三島 佳代子
日本語学習体験者、市内日本語教室の代表者
- ・参加人数：30人

ウ ひろしま奨学金支給事業（決算額：1,051万2千円）

広島市内に居住し、市内の大学・大学院に在籍する私費留学生に対し、経済的な問題に影響されることなく安心して学業に専念できるよう、奨学金を支給した。

- ・支給人数：30人
- ・支給金額：30,000円／月×12か月

（3）収益事業等

ア 広島平和記念資料館での収益事業（決算額：1億833万7千円）

(7) 出版事業

次のとおり出版した。

- ・「図録 広島平和記念資料館 ヒロシマを世界に」 増刷：10,000部
- ・ヒロシマ読本（英語版） 増刷：3,000部
- ・被爆証言集（英語版） 増刷：2,000部
- ・写真集ヒロシマ 増刷：10,000部

(4) 販売事業

原爆・平和関係の図書、CD、DVD、グッズ等を、広島平和記念資料館内のミュージアムショップで販売した。

(ウ) 常設展示等の解説機器（音声ガイド）の貸出事業

広島平和記念資料館の常設展示を音声で解説する再生機器（音声ガイド）の貸出しを行った。

- ・解説言語：17言語（平成29年4月1日～4月25日）
日英2言語（平成29年4月26日～平成30年3月31日）
- ・貸出件数：69,269件

イ 広島国際会議場での収益事業（決算額：786万8千円）

臨時売店の運営、飲料水自動販売機の設置、コピー・ファクスサービス、レセプションの手配等を行った。

ウ 広島国際会議場の管理運営（決算額：3億7,186万9千円）

(7) ホール及び会議室の利用状況

区 分	貸出可能 区分数 (区分)	利 用 区分数 (区分)	利用率 (%)	利用件数 (件)
フェニックスホール	1,065	477	44.8	196
国際会議ホール（ヒマワリ）	1,065	450	42.3	238
大会議室（ダリア）	2,130	956	44.9	374
中会議室（コスモス）	2,130	894	42.0	369
小会議室（ラン）	2,130	797	37.4	355
会議運営事務室	1,065	698	65.5	822
計	9,585	4,272	44.6	2,354

（注）利用率とは、貸出可能区分数に対する利用区分数の割合である。

(イ) 国際交流ラウンジの利用状況

(単位：人)

区 分	利用者数	内 訳	
		日本人	外国人
国際交流ラウンジ	64,899	56,889	8,010

Ⅱ 無償使用貸借資産

事業を実施するに当たって、広島市から無償使用貸借している資産は次のとおりである。

建物

(平成30年3月31日現在)

名 称	所 在 地	区分	現 在 高
広島平和記念資料館	中区中島町1番2号	建物	事務室等 698.60 m ²
広島国際会議場	中区中島町1番5号	建物	事務室等 358.66 m ²

Ⅲ 事業報告の附属明細書

記載すべき事項はない。